

学校教育係 体力向上の核となる体育授業の改善に向けて



今日の体育は運動量が確保され、子どもたちがよく動いていましたね。ところで、子どもたちに考えさせる場面はありましたか？

考えさせる場面？本時のねらいは技能の習得だったので、あまり意識していませんでした。

実は「考えさせる場面」を意図的に設定することは、「思考・判断」の学習だけでなく「技能」の習得でも効果的です。また、運動の楽しさや喜びを味わわせ、関心や意欲を高めることにもつながります。



小学校担任

「考えさせる場面」を意図的に取り入れた体育の授業づくり

★「考えさせる場面」としては、例えば、**見付ける**・**選ぶ**・**作戦を立てる** という3つが考えられます。

1 見付ける

「友達のよい動き」を見付けて自分の運動に取り入れることなどです。手や足、体の使い方などの「動きのポイント」に着目させて、子ども同士で「動きを見合わせる」ことが大切です。

【例】小学校低学年「走・跳の運動遊び」



コーンのところが上手に回れないな…。



〇〇さんが早く回ってたよ。足と手の動かし方に秘密がありそうだね。よく見てごらん！

体育主任



〇〇さんは曲がる時に手と足を細かく動かしていました。まねしてみたら、コーンを早く回れるようになりました！



2 選ぶ

自分の課題に合った「練習の場」や「方法」を子ども自身で選べるようにすることです。「易しい場や条件のもとで段階的に取り組めるようにすること」などが大切です。

【例】小学校中学年「跳び箱運動：台上前転」



普通の跳び箱でうまく回転できない人は、自分に合ったところで挑戦してみよう！



線を付けたマット



重ねたマット



跳び箱から踏み切る

3 作戦を立てる

※主に中学年以上

「ゲームの型」や「チームの特徴」に応じた効果的な動きや攻め方を選んだり、話し合ったりすることです。各運動を構成している技能を踏まえて作戦を立てることが大切です。例えば、「ボール運動」では「ボール操作」と「ボールを持たないときの動き」などです。

【例】小学校高学年「ボール運動：ゴール型」(サッカー)



シュートに結びつけるために、もっと取り入れたい作戦はないかな？

- A：ドリブルで持ち込む
- B：パスを細かくつなぐ
- C：ゴール前にロングパスをする
- D：ボールを持つ人の近くで誰もいない場所に動く
- E：味方の人数が相手より多いエリアを使う
- F：攻めるときは「2対1」になる場面をつくる

「ボール操作」の観点

「ボールを持たないときの動き」の観点



A・Bはできているけど、Dはやっていないよね。挑戦してみようか！

今回紹介した **見付ける**・**選ぶ**・**作戦を立てる** などをキーワードに、体育の授業を改善してみましょう。運動量確保のために、教師が用意した「例」から選べるなどして、時間をかけずに考えさせることも重要です。今回は小学校の例を示しましたが、中学校でも参考にさせていただきたいと思います。